

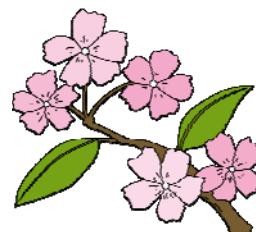
2015年3月25日発行

# 地域と協同の 127号

## 研究センターNEWS

巻頭エッセイ

### 名市大の寄付講義を振り返って



向井 清史

名古屋市立大学大学院経済学研究科 特任教授  
 地域と協同の研究センター 常任理事

今年度（2014年度）の研究センターによる新たな事業への取り組みとして、名古屋市立大学の教養教育に「現代社会と地域と人のつながり」というテーマで寄付講義を提供してきたことは折に触れ紹介されてきたとおりである。同大学の学生数は1学年約千名弱であり、開講されている科目数が200ほどある中で、受講者が90名もあったことは予想していた以上の滑り出しだったと評価してよいであろう。

この程、この講義に対する学生の「授業評価アンケート」結果が出たので、簡単に紹介したい。ちなみに講義を学生が評価することは、今日どこの大学でも行われている。名古屋市立大学では、講義が目指すべき目標として「問題発見・課題解決能力の向上」、「自己能力向上」、「社会的視野の拡大」、「知的関心の向上」の4点を挙げている。この4点について、学生の評価を一言でまとめると、本講義は、他の講義と比べて相対的に「問題発見・課題解決能力の向上と社会的視野の拡大に繋がったが、自己能力の向上や知的関心の向上に繋がることは少なかった」というものであった。

問題発見・課題解決能力が高まったことを自己能力の向上と考えないのは、最近の学生気質を表すもので、資格試験や何らかの検定試験に役立つ能力だけを自己能力と考えている学生が多いことから理解できる。

残念なのは、社会的視野を拡大させることに成功したのに、それを知的関心の向上にまで繋げられなかったことであろう。社会の様々なことを知る機会にはなったが、もっと知ってみたい、学んでみたいと思わせる好奇心をかき立てるには少し至らなかったということである。コーディネーターをつとめた私としては、毎回講師が入れ替わる講義において、一貫した共通の学びの軸を示すことに努力が足りなかったと反省している。

**CONTENTS**

巻頭エッセイ 名市大の寄付講義を振り返って	1
第11回東海交流フォーラム 開催速報	
「よりよい“暮らし”をつくる 地域のつながり！」	2
2月14日 暮らしと生産をつなぐ「もの」づくり 開催	3
三重のつどい「みえ次世代 農家 トークバトル」開催	
若手農家、経営や食の安全など 本音を語る	4
情報クリップ	5-7
企画案内・書籍案内	8

**研究センター 3月の活動**

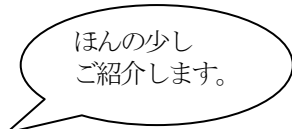
3日(火)	常任理事会
5日(木)	三重のつどい世話人会
6日(金)	第5回組合員理事ゼミナール
9日(月)	食と農パネル世話人会
11日(水)	生協の未来のあり方研究会
12日(木)	研究フォーラム職員の仕事を考える世話人会 三河地域懇談会 実行委員会
13日(金)	岐阜地域懇談会 世話人会
17日(火)	暮らしを語りあう会
18日(水)	地域福祉を支える市民協同パネル世話人会
19日(木)	常任理事会／共同購入事業マイスターコース企画委員会
27日(金)	NEWS編集委員会
28日(土)	第11回東海交流フォーラム実行委員会 まとめの会／第5回理事会



# 「よいよい“暮らし”をつくる 地域のつながり！」 ～新しい力とともに未来を探る～

2月7日（土）第11回東海交流フォーラムを生協生活文化会館4階ホールに於いて、111名の参加で開催しました。まず金城学院大学人間科学部教授 朝倉 美江先生から、フォーラムと同じテーマで講演をしていただき、4つの地域懇談会から選んだものとコープぎふの事例を報告いただきました。その後10名ほどのグループに別れ、自由に交流しました。最後に、参加者より「地域で発信していける新しい力として、まずは自分の地域で、小さな単位でつながって組織をつくって活動することが大事だということ学んだ。」などの発表がありました。

アンケートでは「自分が豊かになるには周りの人も一緒にとの思いは同感です」「地域で若い方ががんばっていることはすばらしい」「点から線、そして面へつながりを広げることが大切だ」などの声をいただいています。



## 講演 「よいよい“暮らし”をつくる地域のつながり！」 ～新しい力とともに未来を探る～

講師 地域と協同の研究センター理事・金城学院大学人間科学部教授 朝倉 美江氏

今、気になるのが、とても不寛容な社会になってきていることです。過酷な状況の人たちがいることをわかっていても見て見ぬふりをしたり、排斥運動をしたりという状況があります。生活保護世帯へのバッシングも激しくなっています。妊婦さんが満員電車の通勤の中、乗っていると、おなかを蹴られることもあり、「乗っているおまえが悪い」と平気で言われてしまう状況です。

ゴミ屋敷の問題は、買い物難民の問題ともつながると思います。ゴミ屋敷の問題は、単に不衛生で迷惑ということではありません。買い物難民の問題は、買い物ができなくなって困っているという問題ではありません。社会的排除の問題だといわれます。というのは、私たちの生活は、人と人がつながってあたりまえの生活が営めるからです。誰かが来ると言えばいつも以上に掃除をします。部屋をきれいにするのは、日々の生活の張りにつながっています。最初は気づかないし、たいしたことではないのですが、生きる意欲がなくなるとだんだん面倒くさくなります。生活は継続性、慣性があります。突然

ゴミ屋敷にはならないのです。突然、買い物難民にはならないのです。買い物するところがなくなり不便というだけなら問題ではありません。何が問題かと言いますと、買い物に行く意欲がなくなるのが問題なのです。たとえば、家族がいればご飯をつくります。ひとりになると適当になります。ひとり暮らし世帯は食事が貧困になると言います。食事は、単に食べ物を届けばいいということではありません。そういう解決の問題ではないと思います。食事をしようという思い、栄養管理をして元気でいようという思いがなくなることが問題です。宅配すれば、ネットがあれば、スーパーが届けばいいという問題ではないということを確認しておきたいと思います。今の貧困問題は、経済的に貧しいだけでなく、それ以上に社会の中で排除される、誰にも声をかけられない



ことが大きな特徴です。

苦しみを体験した阪神淡路大震災の被災者が東日本へ行っています。かなしみのわかちあいです。無力のように思えたが、被災地へ行って自分の役割が見えたと言っています。大事なことです。希望とは誰かと一緒に行動することです。



## ＜報告＞地域で取り組まれている実践の事例について5つの報告をしていただきました。

報告① 地域と共に生きる暮らし

山県市地域おこし協力隊 中村 大祐氏

報告② 志多ら&てほへが受け継ぐ地域文化と新たな地域創造への挑戦

NPO法人「てほへ」副理事長 大脇 聡氏

報告③ 八百津町久田見地区 買物支援の取組み

生活協同組合コープぎふ 多治見支所支所長 辻 善一氏

報告④ 地域課題の解決に向けての新しい連携

～「大規模団地等における孤立防止推進事業」における地域とコープあいちの連携～

社会福祉法人 名古屋市名東区社会福祉協議会 事務局長 内山 和美氏

報告⑤ みえ次世代ファーマーズ miel（ミエル）に関して

石本果樹園 石本 慶紀氏

今回の交流フォーラムの内容を特集した冊子を、増刊・研究センターNEWSとして発行する予定です。作成しましたら会員の皆様にはお届けします。（文責：事務局）

## 2月14日 **くらしと生産をつなぐ“もの”づくり** 開催

文責：事務局 鈴木隆司

2月14日（土）に南生協病院で「くらしと生産をつなぐ“もの”づくり」の講演と意見交流会の会が、60名ほどの参加者（一般消費者、食育活動関係者、医療関係者、行政、メーカー、研究者など）で開催されました。主催は、「ものづくりの思いを語る会」「とうかい食農健サポートクラブ」「特定非営利法人地域と協同の研究センター」です。南医療生活協同組合、社団法人協働・夢プロジェクトが後援し、愛知県農業総合試験場、三重県農業研究所の皆さんも参加しました。

基調講演、講演と2つの関連発言があり、そのあと、6つのグループで、活発な意見交換交流が行われました。最後に各グループから一人、感想を出し合い、各講師よりコメントをいただき、終了しました。分野の違う方々が一同に会して、「もの」づくりをどうしていくか意見交換する場を持つことができ、貴重な機会となりました。基調講演と講演の概要の一部ですがご紹介します。

### ◇基調講演◇

「くらし（食）にかかわるものづくり（価値創造型への協働）」マーケットの発見から始める協働の研究開発・ものづくり

大泉 賢吾 氏（広島大学大学院生物圏科学研究科・地（知）の拠点コーディネータ）



10年前くらいに、技術よりもマーケットが引っ張るイノベーションの方が遙かに効率的という報告がありました。品質等ものの価値があって、次に名称等の表現する価値があって、そして実体がない意味的価値、感情とか、愛着とかが入って「ブランド」になります。意味、物語、技術が語れる“もの”づくりをやらないといけません。研究開発のモデルはいろいろあります。

(1) リニアモデルは、研究、開発、製造、販売、順番に渡していくプロセスです。(2) コンカレント・エンジニアリングは、開発と製造、マーケティング等同時進行させ、効率的に商品開発を進める手法です。開発初期に成果が決まるので、叡智を如何に結集するかが大事になります。(3) 連鎖（クライ）モデルは、次々とみんな考えながらすすむ研究開発で、チェーンでつながっているイメージです。マーケット起点にみんな連鎖して、研究開発を最初からやりましょうというモデルで、今注目されています。

コミュニケーションは非常に大事なことで、テーブルを囲みながら話をし、製造部門から出された商品を、いい悪いの判断ではなく、すべての段階で研究者も関与し考えていくとうまくすすみます。連携型、協働型で「ものづくり」をするのが当たり前と認識を変えていただくことがすごく大事ではないかと考えます。

それぞれの領域の方たち全員が関与、話し合いをしているというプロセスが大事です。新価値創造からはじまり、最後まで価値のチェーンになってつながっていくことは、生協の人達の得意とすることだと思います。消費者との強い連鎖でイノベーション、価値創造の協働の“もの”づくりを進めていただければと思います。

### ◇講演◇「生命食一食と農業の価値を高める一」

西村 訓弘 氏（三重大学大学院医学系研究科・教授 地域戦略センター長 副学長）

今また東京オリンピックで都市部に人を集めています。本当にそれでよいのでしょうか。地域格差が拡大し田舎は疲弊化しています。三重県南部は農林水産業が主な産業ですが、土地を捨てないとい

けない状況です。本当に地方はだめなのでしょう。

私は実験してみました。テーマは農業です。南伊勢町で、JAが撤退しました。農産物は米以外とってくれない地域でした。ではどんな農産物をつくれればと調べてみたら、キャベツを生産すると時給は2560円ということでした。やりたくなります。4月以降高くなります。その時期は端境期です。そこでキャベツをつくって欲しいと3人の農家を説得し、4300株を栽培しました。しかし鹿に食われ、電柵して再度挑戦し、8割収穫しました。販売について名古屋にもって行ってということも検討しましたが輸送コストが高額となり断念し、軽トラで10分のところにある地元のスーパーに出荷しました。今まで農業は市場中心で、旬のものが一杯とれすぎると暴落していました。また台風がくると高騰し、博打のような仕組みでした。スーパーと直取引すれば上下動はするが売れます。消費者に中身を理解してもらい、地域にあるインフラを活用して、いろんな登場人物をつないでいけばいろんなことができると思いはじめました。

最近、鳥羽に、魚連、農協いっしょになって直売所（鳥羽マルシェ）をつくりました。そこは、平日、観光客でなく地域の人が魚や野菜を買いに来てにぎわいます。

全部のインフラができて21世紀ですが、これからはビリから社会モデルをつくりたい。適正なサイズで臨機応変にいろんなことに対応できる方がいいと思います。昔の常識は、今にあっていません。ゼロから今の世の中を見て、田舎だから人口が減ってだめでなく、あきらめないで考えていけば若者に楽しい時代がくると思います。

## 三重のつどい「みえ次世代 農家トークバトル」開催 文責：事務局

# 若手農家、経営や食の安全など 本音を語る

2015年1月30日、三重大学 環境・情報科学館1階ホールにて、三重県内の若手農家4名が農業の思い、本音をたたかわせる「トークバトル」が開催されました。農業ビジネスや家族との暮らし、食の安全・安心などをテーマについて語る若手農家の本音に、60人の参加者が耳を傾けました。当日の様子は朝日、中日、読売の各新聞が報道しました。バトル参加の若手農家は、津市の浅井農園 浅井雄一郎さん、紀北町の紀伊ファーム石倉至さん、鈴鹿市の佐野オーキッドの佐野拓也さん、伊賀市の伊賀ベジタブルファーム村山邦彦さん、司会は紀宝町のみかん農家石本慶紀さんです。



司会の石本さんから、三重県農業のある数字、4.4%が提示されました。この低い数字、実は三重県全体の農業従事者のうちの40歳以下、若手農家の割合だったのです。その4.4%の「とにかく頑張って農家をやっていこう、仲間がスクラムすることから始めようと賛同して集まったのがmiel」という説明からトークバトルは始まりました。印象に残ったお話を紹介します。

- \* エネルギーの研究—燃料電池の開発—をやっている、エネルギーを使わなくても生きていけるようにと農業に飛びつきました。名張にトマトの有機栽培の名人がいて、お話を聴いて感銘を受け、師匠と思って入り込みました。計算できる化成肥料や地域内循環も大事にしています。有機栽培の農産物が安全安心か、おいしいかということでは、直接関係があるということではありません。しかし、有機農業やっていると腕のある人のつくる野菜はおいしいわけです。これからの農産物の選ぶ基準は作っている人を選ぶということです。
- \* 奥さんが妊娠して、安心して食べてもらえる野菜を作らないといけないと思っています。基本的な考え方は元気な野菜を作りたいということです。元気な野菜はおいしくて、栄養価も高いです。普通は、農薬散布はしませんが、使う時はJAS認定のものを使い、酷くなると化学系を散布しています。元々、化学メーカーで農薬開発に関わってきて農薬の理解は比較的あると思っています。農業に参入するのに、土地を見つけることが難しかったのですが、販路は意外にすんなり確保できました。厳しいのは、獣害です。ある程度対策を練って被害がなくなってきたら、今年の台風で水に浸かってしまいました。台風にあってもちゃんと生産できる技術が大切だと思います。
- \* 農薬と肥料は、使わないと作れません。ただ働く人の負担も少ないように考え、回数も減らしています。ある特定の虫にきく昆虫をハウスに放したり、そういう生態系をつくる努力もしています。「正直なものづくりを誓う」というテーマを出しましたが、自分の姿勢を正す意味でも1年に1回伊勢神宮外宮にトマトを奉納しています。私も勉強しないといけないと思い、4～5年前に三重大学大学院でトマトの研究をしました。オランダではなりたい職業の、NO3に施設園芸があがっています。日本のトマトは、70万トンの生産で、オランダも70万トンの生産ですが、しかし生産者は、日本では2万人いますが、オランダでは200人です。オランダのやり方を日本も勉強する必要があると思います。
- \* お花のある暮らしはいいですね。飾って貰いやすいお花ということで、下駄箱の上に飾れる小さなシンビジウムを、値段も手ごろに2000円くらいで販売しています。家族も一緒に仕事をしてしていますが、下の子が保育園に入って、子どもも農場へ入れています。今から刷り込んでいくと、跡継ぎになってもらえるかもしれないという思いもあります。鈴鹿市ではほとんどが兼業農家で、地域の活動にも参加しにくい状況です。私は子ども達と地域の活動をつなぐ活動をしたいと思っています。足場を固めて、地元でやっていきたいと思っています。

最後にコープみえ非常勤理事、大原興太郎（三重大名誉教授）氏から日本の農業就業人口が1960年の1196万人から2010年261万人に減ったと紹介があり、消費者の、ちょっと高いけれど頑張っている人のモノを買いたいという消費行動が若い農家を支えていくとの呼びかけがありました。



# 情報クリップ



メインタイトル・特集など 刊行物名・発行所	目次・主な内容	発行年月 判型 定価(税別)
<p>▶震災から4年 これから生協が できること</p> <hr/> <p><b>NAVI</b> 2015. 3 756 日本生活協同組合連合会</p>	<p><b>特集 震災から4年これから生協ができること</b>                  &lt;僕らは商品探偵団&gt; 最終回                  &lt;全国のラブ・コープ・キャンペーン♪ラブコが行く&gt; 最終回                  2014年度もコープ商品総選挙が全国で展開されました！                  &lt;突撃☆あなたの街の組合員活動&gt;とくしま生協                  &lt;進化する生協の店づくり&gt; 2014年度・生協店舗の取材を振り返って                  &lt;こんにちは！生協女子ですっ！&gt;                  生協協立社 高橋静香さん                  &lt;宅配・現場レポート&gt;                  コープこうべ 動画ツールによる宅配事業の訴求                  &lt;明日の暮らし ささえあう COOP共済&gt; ならコープ                  &lt;生協人の基礎知識&gt; 最終回 地域に期待される生協の役割                  &lt;CO・OPニュースフラッシュ&gt;                  コープこうべ 福井県民生協                  &lt;この人に聴きたい&gt; ドキュメンタリー映画監督 榛葉健さん</p>	<p>2015年 3月 A4版 35頁 定価 350～円</p>
<p>▶ 福島いま</p> <hr/> <p>医療生協の情報誌 <b>COMCOM</b> 2015. 3 571 日本医療福祉生活協同組合 連合会</p>	<p><b>▶特集 福島いま 原発事故の傷は深く厳しい</b>                  インタビュー 先の見えない避難者に正しい情報と生きる糧を                  獨協医科大学 准教授 木村真三                  原発震災の深刻さをここ福島に見てほしい 浜通り医療生協 理事長 伊東達也さん                  [レポート] 県内組合員の支援活動 避難した人たちの悲しみに寄り添って                  福島医療生協 飯森マサ子さんの自宅にて                  [バンビのつぶやき 27]                  思いを馳せる 店主 中根桂子                  [現場のひらめき地域のひらめき 第3回]                  その人らしい自立した生活を介護保険・障がい福祉サービスと                  暮らしの助け合いで支える                  特定非営利活動法人ワーカーズコープ夢コープ（静岡県）                  [みんなで健康づくり 第3回] ヘルスコープ おおさか スクエアステップ教室                  適度な運動を定期的につづける                  [協同のある風景] 225                  「いっしょに食べる」で広がるつながり 愛媛医療生協</p>	<p>2015年 3月 A4版 40頁 定価 400円</p>
<p>▶いま、『協同』が創る 2014年全国集会 IN 九州・沖縄</p> <hr/> <p><b>協同の発見</b> 2015. 2 267 協同総合研究所</p>	<p>■全国協同集会特集号作成を通じて感じたこと                  相良孝雄（協同総合研究所 事務局長）  <b>特集号 いま、『協同』が創る2014年全国集会IN 九州・沖縄</b>  <b>協同の力で働く喜び、生きる喜びを！</b>                  ～集まらんですか、語らんですか。平和尊び、命輝く未来へ～                  協同集会の基調 協同集会実行委員会                  全国協同集会の歴史一覧 写真で振り返る協同集会                  &lt;1日目・全体集会&gt;                  ◎主催者挨拶 倉重博文（共同代表・福岡県農業協同組合中央会会長）                  ◎来賓挨拶 海老井悦子（福岡県副知事） 中園政直（福岡市副市長）                  ◎ビデオメッセージ 朴元淳（パクウォンスン）（ソウル市特別副市長）                  ◎韓国地域自活センター協会と日本労働者協同組合連合会による                  包括的協同に関する協定書締結式                  ◎記念講演 「歴史的危機の時代に、共に生きる、共に働く社会を創る」                  姜尚中（聖学院大学学長・東京大学名誉教授）                  ◎パネルディスカッション「農と自然、つながる命ー未来の仕事創造するー」                  パネリスト 山下惣一（農民作家） 宇根豊（農と自然の研究所） 天生目紗帆 蜂巢賀晃星                  岡元ルミ子（ワーカーズコープ国分ほのぼの 仕事ができる子どもたち）</p>	<p>2015年 2月 B5版 224頁 定価1300円</p>

	コーディネーター：永戸祐三（日本労働者協同組合（ワーカーズコープ）連合会理事長） ◎ 特別企画 生笑一座（認定NPO法人抱僕） ◎ 東北からの報告 東北からの復興に向けた実践報告 亀山紘（石巻市市長） 東北からこの社会の希望と未来を切り開く 田中羊子（ワーカーズコープ） <2日目 分科会> ① 高齢者が地域で活躍するコミュニティケアの創造へ ② 生活困難者支援制度を焦点に ③ 思っていること、感じていること、たくさん話しませんか ④ 成長なき「人口減少社会」に持続可能で豊かな社会をつくる ⑤ 東日本大震災からの復興を人間復興のコミュニティへ ⑥ あなたの《意志あるお金》でくらしと社会を変える ⑦ どうなるTPP「私たちの食・医療・暮らし～危ない自由貿易協定の罣～」 ⑧ 日韓社会的経済プラットフォームづくりに向けて ⑨ 沖縄・水俣・福島をつなぐ ⑩ 障がいのある人々が共に創り出す共生社会 ⑪ 労働の破壊を許さず、人間らしい労働の創造へ ⑫ 市民の力で自給・循環する地域づくりへ ⑬ 平和なアジアを市民連帯の力で創る ⑭ 遊休施設を活用した市民主体のまちづくり・仕事おこし ⑮ 笑いが創る共生・協同の社会を目指して ⑯ 子ども若者の困難を超える地域づくり ⑰ 人生80年時代の食と農と福祉 ⑱ 子ども若者が地域再生・まちづくりの主体に ⑲ 自然と里山を活かした地域づくり 【移動分科会：飯塚市】 ⑳ 死の海からの復活 洞海湾の奇跡を知ろう 【移動分科会：北九州市】 食を通して自然と海のつながりを見つめ直す【移動分科会：糸島市】	上原良博 江田初穂 彦坂冨香 玉木信博 内村恵 福田妙子 細越雄二 佐々木政行 藤野克彦 小林啓示 緒方満 佐々木逸人 田中秀雄 川合秋穂 黒田志保 刀根由紀子 高次玲映 廣松真希子 天野良昭 梶山謙介 山口由香里
--	---	---

▶大震災から4年 福島を考える ~~~~~ 生活協同組合研究 2015. 3 470 (財) 生協総合研究所	■ 巻頭言 介護報酬改定に思う 兵頭剣 ▶特集 大震災から4年 ー福島を考える 福島復興の光と影 内堀雅雄 福島県における企業復興の現状と課題 西山健一・大澤理沙 福島原発事故の現状と課題 菅野篤 生活協同組合から見た震災復興の現状と課題 今野順夫 コラム1 被災地・被災者の“ありがとう”と“忘れないで”の声に寄りそいながら 小野雄三 コラム2 法律相談に見る原発事故被災地復興の課題 渡邊純 コラム3 避難生活の長期化とコミュニティ形成 高木竜輔 ■ 海外情報 協同組合のひとつの起源を訪ねてー金榮注氏の談話からー 近本聡子 フィンランドの高齢者福祉の近況とその前提④ 鈴木岳 第11回ICA-AP地域総会およびILO・UNICEF視察に参加して 宮崎達郎	2015年 3月 68頁 B5版
--	---	---------------------------

▶東日本大震災からの 復旧・復興 ~未来に向かって ~~~~~ 月刊JA 2015. 3 721 全国農業協同組合中央会	特集 東日本大震災からの復旧・復興 ~未来に向かって 【解説】被災地の“いま”と“新しい姿” 復興庁 【報告】地域における復旧・復興の取り組み ① 岩手県JA女性組織 ② 宮城県(有)耕谷アグリサービス ③ 福島県JA伊達みらいみらい百彩館「んめーべ」 ・きずな春秋ー協同のこころー 童門冬二 ・ミノーレからこんにちは / JAグループ共通コンテンツ ・地方紙ニュース 第48回 高病原性鳥インフルエンザに対峙して 大田浩司（佐賀新聞社） ・直言！JAへのメッセージ 生産者の喜びも悲しみも 佐々涼子（ノンフィクションライター） ・JAトップインタビュー 農家目線の都市農業 大阪府JA大阪南 代表組合理事長 中谷清 ・地域・支店から『戦略』を考える 組織と活動をどう進めるか？ 増田佳昭	2015年 3月 A4版 58頁 年間購読料 4,800円 (送料込)
---	---	---

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海外だより [DC通信] 46 アメリカの物価はどれくらい <span style="float: right;">古林秀峰</span></li> <li>・見せましょう、協働の底力！ 東日本大震災からの復興を支援する 「もーもースクール」～地域交流牧場全国連絡会～ <span style="float: right;">青山浩子</span></li> <li>次代へつなぐ協同実践塾</li> <li>・持続可能な農業の実現 消費者との信頼関係の構築と食品表示 <span style="float: right;">JA全中営農・経済改革推進部</span></li> <li>・豊かで暮らしやすい地域社会の実現 JAグループの「認知症サポーター」養成の取り組みについて <span style="float: right;">JA全中くらしの活動推進部</span></li> <li>・10年後 JA が存続するために 活力ある職場作り <span style="float: right;">JA 全中経営指導部</span></li> </ul>	
<p>▶病棟機能再編と 経営戦略</p> <hr style="border: none; border-top: 1px dashed black;"/> <p>文化連情報 2015. 3 444</p> <p>日本文化厚生農業協同組合 連合会</p>	<p>農協組合長インタビュー（14） 生産者が理想とするJAに <span style="float: right;">八木岡勉</span></p> <p>厚生連医薬品全国共同購入委員会（仮称）の設立と 新たな共同購買事業の展望 <span style="float: right;">伊藤幸夫</span></p> <p>院長リレーインタビュー（282） 急性期・慢性期・福祉まで切れ目なく <span style="float: right;">小嶋正義</span></p> <p>第1回西日本厚生連看護部長ブロック交流会を開催しました 仁木学長の医療時評（129） <span style="float: right;">新宅祐子</span></p> <p>「地域包括ケアシステム」の法・行政上の出自と 概念拡大の経緯を探る <span style="float: right;">二木 立</span></p> <p>茨城西南医療センター病院「医療連携セミナー」を開催 <span style="float: right;">平間好弘</span></p> <p><b>病院機能再編と経営戦略</b></p> <p>介護報酬改訂から見えること 総量規制／複合シフト／地域内統合 <span style="float: right;">東 公敏</span></p> <p>地域包括ケアシステムと訪問介護の役割 <span style="float: right;">宮崎和加子</span></p> <p>182床の地方病院での治験への取り組み <span style="float: right;">山本武史</span></p> <p>厚生連院内感染予防対策研究会で学ぶこと <span style="float: right;">仲川賢治</span></p> <p>見えないものとの戦い <span style="float: right;">松本香織</span></p> <p>やりたいことが見えてきた研修 <span style="float: right;">吉本小百合</span></p> <p>伊勢原協同病院の病院給食（2） もっと地場野菜を使うために <span style="float: right;">石井洋子</span></p> <p>宮城・被災地の農業復興と新しい風 <span style="float: right;">西出健史</span></p> <p>岐路に立つ日本のエネルギー政策（最終回） 持続可能なエネルギーシステムへの転換を目指して <span style="float: right;">大島堅一</span></p> <p>野の風 ● できないこともまた楽しい！ フラメンコのすすめ <span style="float: right;">森田めぐみ</span></p> <p>デンマーク&amp;世界の地域居住（70） イギリスの地域資源：マリーキュリーがんケア <span style="float: right;">松岡洋子</span></p> <p>グーテンターク、ドイツVI 『若きウェルテルの悩み』—不倫の愛の物語 <span style="float: right;">鵜飼博樹</span></p> <p>ユーブパス — 1979年設立の社会的協同組合B型+A型 <span style="float: right;">小磯 明</span></p> <p>線路は続く（84） 啄木とハチ公の里を結ぶ花輪線 <span style="float: right;">西出健史</span></p> <p>最近みた映画 KANO—カノー 1931海の向こうの甲子園 <span style="float: right;">菅原郁子</span></p>	<p>2015年 3月 B5版 88頁 文化連情報 編集部 03-337 0-2529 *注</p>

地域・協同の運動、協同組合に関する文献資料、協同組合・生協関係の研究所などの調査研究成果や研究センター会員の研究成果などから、比較的入手しやすいと思われるもの、寄贈いただいたもの(✳)などを中心に順不同で紹介しています(主な内容は目次等から事務局が要約しています)。詳細は研究センター事務局までお気軽にお問い合わせください。

企画案内

リニア中央新幹線のどこが問題か？

●2015年4月19日(土)13:30~16:00

●日本特殊陶業市民会館(旧名古屋市民会館) 3F第1会議室 (金山総合駅から北へ徒歩5分)

①報告 「環境影響評価準備書の問題点と現在の状況」 主催者

②講演 「リニア計画の真実と終着駅」 橋山禮次郎さん

③緊急集会 **国交省、環境省に私たちの声を届けよう!**

資料代:700円(学生500円)

備考: 昨年9月18日にJR東海が発表した「中央新幹線(東京都・名古屋市間)環境影響評価準備書」

今回(第3回目の市民講座)は、「必要か リニア新幹線」(岩波書店)の著者であり、運輸政策審議会委員等を歴任され、また 政策評価 公共計画 経済政策を専門とされる立場から、最も早くからリニア新幹線建設に警鐘を鳴らして来られた橋山禮次郎さんに、上記とは別の視点からリニア計画の問題点を指摘していただきます。(ウェブサイトより抜粋)

【主催】リニアを問う 愛知市民ネット 【問合せ先】小林 収 090-3384-7003

→[http://blog.goo.ne.jp/harumi-s\\_2005/e/efb797f3e2e346b048b6bfe53503c99f](http://blog.goo.ne.jp/harumi-s_2005/e/efb797f3e2e346b048b6bfe53503c99f)

【後援】日本自然保護協会、愛知県保険医協会、未来につなげる・東海ネット

書籍案内

共生と提携のコミュニティ農業へ

著者 蔦谷栄一 著 定価 1,728円(税込) 発行日 2013/01

出版 創森社 判型/頁数 B6 288ページ

解説

今、求められるのは自由競争、グローバル化を過度に急ぐ市場原理ではなく、自然や地域をよりどころにした共生の原理。多様性、持続性、関係性に立脚しながらコミュニティ農業を中核にし、人間復権の地域自給圏、農的循環社会を築き直す道筋を提示する。

目次

- 序章 コミュニティ農業の価値と可能性を求めて
- 第1章 グローバル化で揺らぐ食の安定と安全・安心
- 第2章 関係性を土台にした資源循環サイクルを築く
- 第3章 農産物直売所はコミュニティ農業の牽引役
- 第4章 地域生態系に根ざし持続可能な農業へ
- 第5章 共生と提携を基軸にしたコミュニティ農業
- 第6章 CSA等に見る米欧の産消提携の取り組み
- 第7章 食農体験を積み重ねて～報告・農土香から～
- 第8章 帰農・皆農の潮流とコミュニティ農業の形成

創森社ホームページより



2015年3月25日発行(毎月25日発行)

定価200円

(税・送料込み。年会費には購読料が含まれています)

発行 特定非営利活動法人地域と協同の研究センター

代表理事 西川 幸城

〒464-0824 名古屋市千種区稲舟通1-39

TEL 052-781-8280 FAX 052-781-8315

E-mail AEL03416@nifty.com

HP <http://www.tiiki-kyodo.net/>

研究センター 4月の活動予定

2日(木) 三河地域懇談会フィールドワーク

「よってって横丁」見学会

6日(月) 尾張地域懇談会 世話人会

9日(木) 寄付講義 スタート/組合員理事ゼミ世話人会

10日(金) くらしと生産をつなぐ「もの」づくり「まとめ」の会  
食と農パネル世話人会

16日(木) 研究フォーラム 職員の仕事を考える世話人会

17日(金) 常任理事会

20日(月) 三河地域懇談会 実行委員会

23日(木) 三重のつどい 世話人会

24日(金) 環境パネル浜岡原子力発電所見学会

25日(土) 第6回理事会

28日(火) 共同購入事業マイスターコース企画委員会